

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

色水～葉を使って～／学校法人勝田学園大成幼稚園（埼玉県）

子どもたちは、色水が大好きです。みなさんの園の子どもたちは、どのような素材や自然物を使って色水作りをしていますか？
また、子どもたちが色水を楽しむ様子を見取り、どのような環境の再構成をしていますか？
保育者が、子どもたちの実態を捉え、子どもの思いに沿って、遊びの素材や道具を考え、環境の工夫に繋げている園の実践をご紹介します。



● 美味しそうなお茶を作りたい／4歳児

日頃、園庭で、泥んこでコーヒーやココア作りを楽しんでいる子どもたち。ある日、「暑いからお茶を作りたい！」とつぶやいた。そこで、子どもたちにいつもとは違った園庭の自然物(自然の素材)を取り入れて遊べるよう、保育者は、環境にすり鉢とすりこ木を用意した。子どもたちは、「これどうやって使うの?」と初めて見る道具に興味津々の様子で道具に関わり、すぐに子どもたちのお茶作りが始まった。

Aちゃん：「どの葉っぱにしようかな。これにしよう」と、アサガオの葉っぱを持ってきた。

Bちゃん：「僕は四つ葉のクローバーがいいな」

Cちゃん：「私はササの葉にしよう」

Dちゃん：「アジサイの葉っぱは大きいからこれにしよう」

- 子どもたちは、園庭で自分たちが知っている葉を見付け、すり鉢に入れる。どんな色になるのか楽しみにしている様子であった。葉をそのまま入れる子ども、千切って入れる子ども、葉の種類も枚数も様々で、思い思いの方法ですり鉢に入れている。

Eちゃん：「ミカンの葉っぱにする」

- それぞれが、すり鉢に葉っぱだけを入れて搗るが、お茶の様にはならない。

Aちゃん：「先生、少し緑になったけど、パサパサだよ」

保育者：「そうだね。葉っぱだけだと少し色は出るけど、パサパサでお茶じゃないみたいだね。どうしたらいいのかな?」

Bちゃん：「お水を入れてみようよ!」

Bちゃんの言葉に、友達も賛成し、みんなで、水を用意する。

- 慎重に水を入れる子ども、並々と入れる子どもなど、それぞれが、水を入れて試し始める。水を入れると、鮮やかな緑色のお茶のようになり、「本物みたい」と喜ぶ子どもたち。しばらくお茶作りをしていると、「どの葉っぱが濃くなるのかな?」ということが、子どもたちの関心事になった。そこで、みんなで調べることにした。

- アサガオの葉→濃い緑
- クローバーの葉→きれいな緑
- ササの葉→ほとんど色が出ない
- アジサイの葉→少し色が出る
- ミカンの葉→ほとんど色がでない



Aちゃん：「アサガオの葉っぱが一番緑色だね」

Bちゃん：「クローバーの葉っぱもお茶みたい」

Cちゃん：「ミカンの葉は色が出ていないね」

などと、みんなで色の違いを見比べていた。

保育者：「どうして、ミカンの葉っぱが一番濃い緑なのに色が出なくて、アサガオの葉っぱは黄緑色で薄いのに色が出たのかな？不思議だね」

- 子どもたちは、葉っぱを触ったり、匂いを嗅いだりして確かめ始める。

Aちゃん：「アサガオの葉っぱは、柔らかくて、フワフワしているから、葉っぱが小さくなって溶けて色が出るんだよ」

保育者：「ミカンの葉っぱは、緑なのにどうして色が出なかったんだろうね？」

- 子どもたちは、しばらく考えていた。

Bちゃん：「ミカンの葉っぱは、硬くてツルツルしていて、葉っぱが小さくならなかったから色が出ないんだよ！」

- 子どもたちは、Bちゃんの言葉に、納得したようであった。



この事例から、子どもたちは葉っぱの種類によって、色の出方に違いがあることに気付いていた。実際、搗って色出しをすると、一番緑色の濃いミカンの葉は色が出ず、一番緑色が薄く黄緑色のアサガオの葉は、色が出ることを発見した。



✦ 考察

- 子どもの「お茶を作ろうよ」のつづきから始まったお茶作りは、いつも遊んでいる園庭にはいろいろな草木があることに気付くきっかけにもなった。
- 好きな葉を選んだり、すり鉢やすりこ木を使って葉を潰して色水を作ったりすることは、初めての経験であった。新たな道具に対して、想像もつかない様子で、潰し方や、力の入れ具合を試しながら、周りの友達の動きを取り入れて、真似ている子どもが多かった。
- 実際、すりこ木で潰すだけでは、葉から水分が出ず、お茶の様にはならない状況にどうしてだろうと不思議がっていた。子どもから湧き出る疑問を大切にすることで、「カサカサしているから水を入れてみよう」という子どもの気付きに繋がった。水を入れると自分たちが想像していたお茶に近付き、満足そうであった。
- そして、もっと緑色のお茶にしたいと探求心が芽生えた。園庭にあるどの葉がよく色が出るのかを知りたいと思う気持ちが子どもたちを動かし、いろいろな葉っぱで試すこととなった。そこで子どもたちは葉っぱの種類の違いで色の出方の違うこと、葉が柔らかい方が鮮やかに色が出ること、細かく搗ることで水に溶けることに気付くことができた。
- この子どもたちは、自然物を使った色水遊びは初めてだったが、子どもたち自身が考えたり、試したり、試行錯誤をして体験して欲しいという願いから、保育者が答えを出さない、答えを急がないようにしてきた。子どもたちが考える時間や友達と考え合う場の保障、保育者が見守り待つことの大切さを実感した。